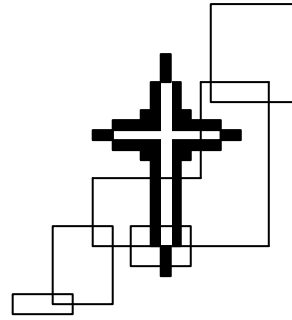


日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう
ニュースレター1月号
2002 年 1 月 1 日発行



日本のためのとりなしの会

* 事務局：〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方
TEL042-747-5703, FAX042-746-2119
URL: <http://www.Christ-ch.or.jp/>
* 振 替：00270-7-6421

* 委 員：(長)皆川 尚一(神奈川県)
友納 徳治(福岡県)
手束 正昭(兵庫県)
林田 金弥(神奈川県)
行澤 一人(大阪府)
久保 有政(埼玉県)

私の日本近代史認識

林田金弥

最近、日本歴史が中国および韓国でも問題にされています。彼らの日本近代史認識が誤解であることを痛感致しますので私の日本近代史認識を申し述べてみたいと思います。

私は、明治の末年(1910年)に生まれ、大正時代(1912年～1926年)の15年間を幼時から、小学時代と中学時代の初年を過ごしました。また、日本人として韓国で生まれ小学校入学直前までかの地で育ちました。

以上の時代を過ごした私が、「日本近代史」を、どのように歩み、どのように教えられ、どのように認識してきたかを、振り返ってみたいと思います。

この時代の私に、強い影響を与えたのは、天皇の神格化(現人神《あらひとがみ》といった)と「君が代」という小学校祝祭用唱歌(当時も国歌ではなかった)と「教育に関する勅語」の三項でありました。

小学校では、儀式の日には、会場の正面に白木で作ったお社の中に、天皇と皇后のお写真(御真影といった)を飾り、式の中で、校長が進み出て、お写真の前に垂れ下がった白幕を静々と引き上げるのであります。その間、会場の出席者は、全員が「最敬礼」をします。「なおい」の号令で頭をあげるとお写真の下

半身しか見えないのです。

その次は、オルガンの伴奏が始まって、「君が代は 千代に八千代に さざれ石のいわおとなりて こけのむすまで」と歌うのです。

それから儀式で必ず、読まれるのが「教育に関する勅語」でした。この勅語は儀式で読まれるだけでなく、生徒は小学四年生のときに習い、それからだれもが全文を暗唱できたのであります。それほど、たえず、読まれたのであります。

以上から中・韓両国が言う「日本は侵略主義国である」との誤解が与えられたのではないかと思います。

しかしながら、国民が神格化した天皇は歴代平和主義者であって、決して侵略主義者ではなかったのであります。明治天皇は日露戦争のさなかに、次のような和歌を詠まれています。

よもの国みなはらからと思う世に
など波風の立ち騒ぐらん

この意味は、「世界中の国々はみんな兄弟だ」と思う今、どうして戦争なんか起こるのだろう」という御心でした。これを聴いたアメリカ大統領ルーズベルトは、早速、停戦協定の仲介に乗り出しポーツマス条約を結ばせて平和を来らせたのであります。

また、昭和天皇も平和主義者で、太平洋戦争の開戦に強く反対された事実があります。

唱歌「君が代」は、「さざれ石」(小さな

石)が、「いわおとなりて」(大きな岩になって)、「こけのむすまで」(苔の蒸すまで)とあるのが、侵略を象徴しているというものがおりますが、「大きな岩」は領土とは限りません。経済上の小国(貧乏国)が経済大国となることも意味しており、現代の日本が、日露戦争や太平洋戦後の、その日の食糧にも窮する「経済的“さざれ石”」が今は、世界で一二を争う「経済大国“いわお”」となっていることを考えれば、侵略は意味しないことが分かります。

「教育に関する勅語」は「これわが国体の精華」また、「教育の淵源」とされて、日本古来の「汝ら祖先の遺風」であるから、これ守ればよい、「朕(天皇ご自身のこと)汝臣民と共に守って行こう」と結んであります。

これは当時すなわち、明治の初期に広まり始めたキリスト教を排撃する目的で発布されたとの説があります。戦国末期にフランチェスコ・デ・ザビエルを初めとして多くの宣教師(バテレン)が日本に渡来しキリスト教を伝道し、織田信長は受け入れたが、豊臣秀吉は、初めは受け入れたものの後には、バテレン追放令を出し、徳川家康は、「キリシタン・バテレン」は、日本侵略の手先だとして、厳格にキリシタンを排除禁止致しました。それにもかかわらず明治初年には多数の(5万といわれている)「かくれキリシタン」が発見されたのであります。

これとは別途に、キリスト教伝道は明治の初期、鹿鳴館舞踏会に代表される欧米文化吸収の波に乗って好調をもたらしたと思われる。

これらを排除する目的で「教育に関する勅語」は発布されたという説もあるのであります。

以上の三項が日本の侵略を煽(あお)ったとする誤解が生じたのではないと思われるのであります。

私の幼時から約二十数年前に起った日清戦争や、十数年前に起った日露戦争を、私たちは、どのように受け止めていたのでしょうか。

日清戦争(1894年~1895年)は、朝鮮半島の主導権をめぐる起こされたとも、ロシアの南下を防ぐ目的の戦争であったとも言われておりましたが、圧勝して莫大な賠償金と台湾と遼東半島を租借し、また、朝鮮の独立を認めさせましたが、その講和会議の行われたその年に、三国干渉(ロシア、ドイツ、フランスの三国の干渉)があつて遼東半島を返還せしめられ、しかも、その年のうちにロシアは、日本が返還した遼東半島を清国から租借したのであります。

その時、国民はこの事実激怒し「臥薪嘗胆」して、ロシア打倒を誓い合つたのであります。

また、ロシアに対して立場を同じくする英国と「日英同盟」を締結しまして、1904年にロシアに対して宣戦布告をしたのであります。

この事実は、すでに過ぎ去った過去の歴史ではありましたが、これを聴いた私たち子供にも「臥薪嘗胆」の心を与えたのであります。また、日清、日露の両戦役ともロシアの南下を防ぐためであつたと受け止めています。

しかしながら、そうなりますと、大国ロシアを敵とする危険な戦争は東郷平八郎大將が喝破した「皇国の興廃、この一戦にあった」のであります。日本が侵略の意図を持った戦争などとは、どうして言えるのでしょうか。

結果的には、1905年の一月には旅順開城、3月には奉天会戦の大勝、5月には東郷連合艦隊によるバルチック艦隊の日本海海戦における大勝利となつたのであります。

これらの日露戦争の大勝利は予期しない勝利であつて、勝利を予期した侵略の意図は無かつたのみならず、彼ロシアこそ、遼東半島を手に入れ、満州を植民地化し、満州鉄道を敷設し、ロシア国民を多数送り込んでいたのであります。

日露戦争は紛れもなく、ロシアの侵略を防ぐにあつたことは万国の認めるところであるわけです。

太平洋戦争も日本は、アジアを白人支配から解放する「大東亜共栄圏構想」を掲げて戦争に突入したのであります。日本はマニラ、シンガポールおよび南洋諸国を保護して、

「大東亜共栄圏」内の諸国を白人支配から解放いたしました。

しかし、1942年8月ミッドウェイ海戦に大敗北を喫して以来、劣勢に陥り1945年5月には同盟国ドイツが降伏し、1945年8月には不戦条約を廃棄したソ連が連合側に加わって参戦しました。その数日後、原子爆弾投下があり、1945年8月14日、ポツダム宣言を受諾して敗戦に至ったのであります。

しかし、この戦争は終わったものの、「大東亜共栄圏」は悉く、白人支配から解放され、独立国となりました。

日本は戦争は敗戦に終わったが、「大東亜共栄圏」解放という戦争目的は完全に達成されたのであります。

以上の結果からみるときに、日清、日露の両戦役も太平洋戦争も、近代日本の戦争は、侵略戦争ではなかった、という認識であります。むしろ、いずれも、西欧諸国の東洋侵略を排除する目的であったということでもあります。

すなわち、日清、日露の両戦役は、ロシアの東洋進出を喰い止めることであったし、もし、これを放置するならば、日本国は喉元に短刀を突きつけられる危険さえ感じさせられたのであります。

1910年に日韓併合が行われましたが、これ偏（ひとえ）に、ロシアの南下阻止にあったと認識しております。

しかし、この場合も、あくまで相互の立場を尊重した一本化であったと認識しております。そう申しますのは、韓国王族の李王族の李王銀殿下も李鍋公殿下も日本の皇族として迎えられ、日本陸軍の士官とされたのは、日本の皇族と全く同じ待遇を受けておられたのであります。また、日本の皇族から李王家に嫁がれたことも日韓対等の扱いではなかったかと思われまふ。

太平洋戦争では、日本はA B C Dラインを打破し、東亜諸国の西欧諸国の植民地化を排除するにあったと認識しております。

すなわち、1842年、英国の清国（今の中国）に対する南京条約によって香港割譲を手始めに、ベトナム、ラオス、カンボジヤは

フランス領、インドおよびビルマは英国領、次いで、マライ、シンガポール、北ボルネオもまた英国領、スマトラ、ジャワ、南ボルネオ、セレベスは蘭領、チモール島も蘭領。フィリピンは最初スペイン領後に米国領、というように、南洋諸島はことごとく欧米諸国の領土とされていきました。

これらを、それぞれ、現地の人を為政者に立てて、独立させたのは太平洋戦争における日本でした。現在それらの諸国がそれぞれ為政者を立てた独立国となっています。

日本の太平洋戦争によって、欧米の侵略思想は排除され、戦後も侵略を再び行うことなく、東亜諸国が独立を確保されているということができましよう。

以上の現状は、私たちの近代史認識に立てば、真に喜ばしき現状ということができましよう。また、太平洋戦争は日本は敗戦に至ったが、日本の戦争目的は達成され、欧米の侵略は排除されたということができましよう。

以上が日本歴史の正しい記録であります。

それなのに、韓国政府は、これを正しく記録した「日本歴史教科書」を歪曲ときめつけ、日露戦争を日本の韓国侵略と主張しているのであります。（「新しい歴史教科書をつくる会の主張」の韓国政府の主張欄P101）

また、村山首相や小渕首相の発言をわが意を得たりとばかりに訴えているが、両者共外交上の術策を目的とした自虐的発言と思われる。彼らもそのような日本歴史は学んでいないからであります。

中国側の申し入れ（先方よりの覚書）では、日本の文部科学省が検定を合格させた扶桑社の2002年版歴史教科書の基調は、皇国史観を宣伝し、侵略の歴史を否認し美化するものであり、当該教科書は日本軍国主義が発動した侵略戦争に対して何ら反省も行っていないばかりか、史実を歪曲する表現を通じて、力の限り侵略戦争の性質を否認し侵略の罪行を薄め且つ隠蔽するものであり、日本社会と青少年の歴史観の形成を著しく誤って導くものである、――

以上のように述べて申し入れを行っているのであります。

このことは、我々の近代史認識から言えば、

全く承認できることではありません。

中国、韓国の両国は、あれほど欧米諸国に侵略されたのに、これを受け入れようとするのでありましょうか。

この中国、韓国に対する欧米諸国の侵略を排除しようとした日本の数次の戦争を「日本の侵略戦争である」とする非現実の認識を私は全く理解することはできないのであります。

日本は太平洋戦争中も(1943年11月)、アジア各地域の代表を東京に集め、「大東亜会議」を開催したのであります。

会議では、——

各国の自主独立

各国の提携による経済発展

人種差別撤廃

をうたう「大東亜共同宣言」が発せられ、

日本の戦争理念が明らかにされたのであります。

戦争後「東京裁判」では、国際法の専門家であったインドのラダ・ビノード・パール判事は、この裁判は国際法上の根拠を欠くとして、被告全員無罪を主張したのであります。しかし、GHQは、このパール判事の意見書の公表を禁じ、その他いっさいの裁判への批判を許さなかった事実があります。

以上の諸々の所見を洩れなく、正しく総合して、正しい歴史観を得ることが、極めて重要であります。



地域別 とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
〒001-0032
札幌市北区北 3 2 条西 5 丁目 3 - 2 7
TEL 011-717-1801 毎月第 2 日曜日午後 2 時

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ
TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄
〒335-0003 蕨市南町 3-3-12
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)
* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 3 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉

* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)
* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎週第 1・第 3 月曜日午後 6 時 30 分

5. 神奈川県

横浜市 : 聖書とお茶の会 吉田久子姉
〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方
TEL 045-363-5657
毎週金曜日午後 2 時

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>
毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師

〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7

TEL 054-248-4058

毎月第 1 日曜日午後 2 時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・イヴァ・フランシス・チェレギーノ

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 5F

TEL 075-241-3867

毎週火曜日午後 7 時 英語の祈禱会

9. 大阪府

寝屋川市 : 日之出キリスト教会 滝本千歳牧師

〒572-0835 寝屋川市中木田町 26-9

TEL&FAX 0720-22-9232

毎月第 3 木曜日午後 2 時

10. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師

〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34

TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第 4 水曜日午後 9 時 30 分 ~ 12 時

11. 福岡県

福岡市内 : 福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師

〒811-1344 福岡市南区三宅 3-33-1

TEL 092-561-4232

毎朝午前 5 時 00 分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師

〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1

TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第 3 水曜日 7 時 30 分

12. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師

〒874-0933 別府市野口元町 10-1

TEL & FAX 0977-26-3692

e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp

毎週金曜日午後 7 時 30 分

13. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師

〒900-0031 那覇市若狭 2 丁目 9-5 毎週土曜日午後 6 時

TEL 098 - 868 - 5641

2002 年 1 月号祈りの焦点

(1) 継続的課題

1) カルト集団である創価学会の日本国の政治に対する支配力が急速に減少するように。

〔解説〕

* 公明党が自民党・保守党との連立から排除されるように祈りましょう。

2) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中であって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

* 天皇陛下は昨年 12 月 23 日で満 68 歳の誕生日をお迎えになりました。しかし、この日のNHKの特別番組では、この一年の天皇・皇后両陛下の主な行事に参加された様子を簡略に紹介しただけで、半分以上は皇太子妃雅子殿下の紹介に重点を置いていました。天皇陛下についての報道の仕方も、もうすぐ退位されて次の世代に天皇位を譲られる日が近いというような印象を与えるものでした。新聞や週刊誌の報道姿勢も、昨年一年の流れを見ると、ほとんど雅子妃に偏っており、皇太子殿下は添え物の感がありました。未だ 68 歳でご健康な天皇陛下がもっと尊ばれるように祈りたいと思います。

3) 互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

4) 日本国民、特に日本人のクリスチャンが日本の近代史を正しく認識できるように。

〔解説〕

* 本号のトップレポート「私の日本近代史認識」林田金弥参照。

5) マルコーシュ・ミッションの働きが進展するように。また、リバイバル新聞の購読部数が 2700 部に増えましたので、更に 5000 部へと増えるように。また、リバイバル新聞の内容が更に充実したものとなるように祈りましょう。

6) TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

7) 日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

〔解説〕

* 「育児や家事は、女性の仕事」という役割分担意識は、男性を中心にまだ多くみられます。実際に子どもと過ごす時間も、父親は母親に比べて少なくなっています。こうした役割分担意識をなくし、家庭における男女平等を進めることが大切です。父親である男性の育児への参加が求められています。

* 子育て中の勤労者が仕事との両立を図ることができるよう、事業者にも配慮が求められます。育児休業制度の活用を図るほか、公的助成などを利用して、子育て中の勤労者が働きやすい

環境を整備していくことが考えられます。

- * 保育など子育て支援のためのサービス（たとえば保育所、幼稚園、放課後児童健全育成事業<いわゆる学童保育>、家庭的保育<いわゆる保育ママ>、ベビーシッターなど）を利用する場合に判断基準として最も重視することとしては、「質が高く安心して利用できること」(36.5%)や「必要な時間帯に利用できること」(35.6%)などが多くなっています。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を畏れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

2)世界的な戦争状態が早く終息し、平和が来ますように。

〔解説〕

- * 「平和を作り出す人たちは幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであろう」(マタイ 5:9)と主イエス様が言われるように、争いを治め、和解を生み出す働きを神の子たちは求め続けるでしょう。絶望せずに平和を祈り続けましょう。

3) 日本キリスト教団の中に結成された「聖霊刷新協議会」(代表 手束正昭牧師)が、教団内にカリスマ運動に対する健全な理解を深め、聖霊の御業の大いなる進展に用いられますように。

〔解説〕

- * 昨年7月の聖霊刷新新全国大会に出席した無教会のコイノニア会代表・私市元弘(きさいちもとひろ)氏が寄せられた感想文は印象深いものでした。一つは牧師たちの交わりが明るいすがすがしいユーモアをまじえた笑いにしばしば包まれるものであって、深い聖霊体験とその背後にある知的、文化的、社会的な許容性をうかがわせるものがあり、ある種の安らぎを感じさせるものであったこと。今一つ、実感させられたのは、日本のキリスト教の本流がその長い紆余曲折(うよきょくせつ)の歴史を経た後で、それが内臓する文化的伝統と膨大な神学的蓄積を擁しつつ、ようやく御霊の流れに乗り始めたのだ。ようやく「日本プロテスタント」が動きだしたと述べています。

4) 日本のとりなしのために強い使命感を与えられている人が、あと1名委員の中に加えられるように。

5)経済問題

日本国民が、あらゆるテロの脅しや、不況からくる恐れに屈することなく、勇気と希望をもって、経済活動を継続していくことができますように。

日本人がこの大不況の時代を乗り切ることのできる精神的な強靭さを持つことができますように。そのためにも、クリスチャン、キリスト教会が、キリストにある不動の確信と祝福をもって証しを立て、この国の精神性をリードしていけるまでになれるように。

小泉改革があくまで継続されていきますように。特に、民間金融セクターが迅速かつ抜本的な不良債権処理を経て、自由で柔軟な信用創造機能を速やかに回復できますように。膨大な行政の不効率が削り取られ、またあらゆる既得権益を守ろうとする勢力を押し返していけますように。

〔解説〕

- * テロによる国際経済活動に対する影響は、確かに運輸ビジネスを中心として甚大なものがありましたが、それでも当初予想されたような壊滅的なものにはならなかったことに、感謝し

たいと思います。但し、アメリカの消費不況の谷は思いのほか深く、これが世界同時不況の引き金を引こうとしています。日本の輸出企業の収益構造が非常に悪化してきているのが気になります。

* アルゼンチン財政危機（国債の債務不履行）は、アメリカをはじめ、日本、ヨーロッパにも大きな打撃を与えつつあります。米ドルの国際的な信認が問われ始めており、また日本もどこまで米国債を買い支えていけるかが問題となります。

* 失業率が 5.5% を超え、いよいよ構造改革に伴う痛みを本格的に実感するようになってきました。2002 年 4 月のペイオフ解禁にともなって、銀行に対する淘汰が始まっています。競争力のない銀行が淘汰されるのは仕方ないとしても（それでも地方経済に対する打撃は一時的には大きいだろう）、主要な銀行グループの資本準備も危機的な水準にまで低下してきているのが懸念されます。公的資金の注入ということが現実化するのには避けられませんが、それで積極的にリスクを取れるような信用創造機能が回復するということにはなりません。信用収縮がこれ以上進んで、収益性の高い企業までがキャッシュフロー倒産するというようなことにならないよう、国家の金融政策が総動員される必要があるでしょう。日本銀行が、思い切った信用創造（紙幣の増刷）を伴った金融の量的緩和を継続することが重要でしょう。

6) 日本の頭脳を国家更正のために総結集できるように祈りましょう。また、日本のキリスト教会がキリストに在る真の愛国者や、売名や利権に走らないでその財力を神と国家の為に献げる金持を育てることができるよう祈りましょう。

7) イスラエルの平和のために。（詩篇 125:5）

〔解説〕

* 世界の諸国がエルサレムをイスラエル共和国の首都と認めるように。

* この事実上の戦争状態が早く終息して、中東戦争に発展しないように神の介入を祈りましょう。

《会計報告》(2001年8月1日～9月30日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	12,7430	交 通 費	29,120
		印 刷 費	3,969
		資 料 費	18,183
		郵 送 費	20,540
		事 務 費	294
		振替手数料	660
		電 話 料	4,024
小 計	127,430	小 計	76,790
前月繰越	74,416	翌月繰越	125,056
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	253,020	合 計	253,020

【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	3 回	澤田昭夫(東京)	1 回
日之出キリスト教会(大阪)	1 回	三村二三雄(東京)	1 回
相模大野教会(神奈川)	2 回	赤羽根恵告(神奈川)	1 回
札幌グレイス教会(北海道)	2 回	広瀬孝司(千葉)	1 回
佐藤節代(神奈川)	1 回	匿名(長崎)	1 回

【編集後記】

- * ニュースレター2002年1月号をお送りします。
トップレポートは林田金弥先生です。林田先生は現在 92 歳ですが、尚現役の牧師として、横浜滝の上キリスト教会の牧会伝道に仕えると同時に、昨年8月に転居された相模原市のドーマーサガミハラという老人ホームの中で毎火曜日の聖書講義を主宰しておられます。元陸軍南方派遣軍参謀の経歴を持つ方です。
- * 今回の「私の日本近代史認識」は、この戦後50年にわたり日本国民の間に支配的であった、いわゆる「自虐史観」を修正するものとして、大いに意義あるものと思われます。これを読んで「なんだ戦前の皇国史観じゃないか」などと

あまりに早い結論を出さずに事実を直視する必要があるでしょう。

- * 昨年11月、インドネシアのスラウェン島(旧セレベス島)中部の町テンテラとボソでイスラム武装勢力に包囲されていた6万5千人のクリスチャンたちのために世界中からとりなしの祈りが集められました。その結果、これまで動かなかったメガワティ大統領の命令によってインドネシア国軍が出動し、11月27日にイスラムのジハード軍は撤退しました。これによって私たちは祈ることの大切さを改めて深く教えられました。

(ヨハネ 皆川尚一記)

《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2002年1月29日(火)12時30分
場所：日本キリスト教団 高砂教会

